近旅連特集

近旅連 委員会活動 今年の展望

情報連絡員座長会

齋藤建一郎委員長

情報連絡委員会は、近旅連の委員会としては草分け的な組織である。以前は全国の委員長を一堂に集めて活動報告会を開催していたが、２００６年から全国を13ブロックに分け、それぞれのブロックの委員長から座長を選出していただき活動を行うようになった。

活動の基本として「宿泊券の増売」という明確な目標があり、09年は初めての試みとして、「支部対抗メイト商品コンテスト」を企画、実行した。これは各県、またはブロックにおいて、メイト商品の造成をし、その売り上げ実績、伸長率により表彰するという、まさしく増売の目的そのものと言える活動である。造成費用も会社と旅連が共同で負担するので、旅館側もただ販売してもらっているだけということではなく、企画内容のアピールも積極的に行うという「協調の企画」なのである。世界的な景気後退や新型インフルエンザの影響を受けているなかで、結果としては満足できる状況ではないだろうが、今後も重要なポイントである地域発信型の商品として、増売に寄与する取り組みと考えている。

２０１０年についても、活動の柱は商品造成のお手伝いと情報提供であり、これらに積極的に取り組むことで宿泊券の増売を図る。

ネット環境が激しく変化しているので、パンフレットなどの紙媒体のメイト商品だけでなく、ネット商品であるｅクーポンの企画に積極的に取り組んでいく必要がある。それぞれの地域特性を生かし、なおかつピーディーな対応をすべく、座長会議としても地域間競争をすることにより切磋琢磨することはもちろんだが、他地域の情報を共有すること、短い時間でより質の高い商品企画を実現していければと考えている。

国内の景気回復の遅れを考えれば、インバウンドについても何らかの取り組みをする必要がある。また現在問題になっているが、新メンバーが入ってこないことによる委員の高齢化とそれに伴う委員会のマンネリ化についても、09年から開催されている平成旅館塾の塾生が、今後新しい力として当委員会に多数入ってくるものと期待している。

旅行・旅館業界にとって今年も厳しい状況が続くと予想されるが、実質的な活動をする組織であることを意識して、積極的な売り上げ増進に頑張っていきたいと考えている。

教育旅行部会

山内宏之委員長

２００９年は、なんと言っても春期における新型インフルエンザによる影響を大きく受けた1年だった。特に教育旅行では、安全を第一とすることから、当日や前日のキャンセルが当たり前のように相次ぐなど、今までの常識では考えられない状況だった。また、一昨年来の不況が深刻化する中では、それをカバーすることもままならず、今まで比較的安定が望めた教育旅行の市場も、何が起こるか分からない時代においてはその例外ではなかった、ということだろうか。

教育旅行部会では、会社の掲げる「夢と感動の修学旅行」を推進するために、各ブロックにおいて、その地域の実情に即してその実現、充実に向けての活動を行なうということが基本方針としてある。そうした中、毎年3月に開催される全国ブロック長会議では、教育旅行市場について、各地域での取り組みの情報交換を行い、また大きな流れについても勉強をしている。昨年は文部科学省から出向していた観光庁の西阪昇審議官をお招きし、観光庁の教育旅行へ取り組みなどについて伺った。また航空会社の方からお話を聞き、今や教育旅行の移動手段としても欠かせない飛行機利用についても理解を深めた。

近年、教育旅行の市場でも、競争はますます激しくなっている。すなわち、学校のニーズにどれだけ細やかにこたえられるかが問われているのである。

安全第一が教育旅行のモットーである。日々の衛生管理に力を注ぐことが必要であり、また宿泊時に起こる発病をはじめ突発的なことに対しての危機管理がしっかりとなされていることが、学校から信頼を得るポイントとなる。これらは教育旅行の受け入れ施設として当然のことだが、やはり競争に勝つためには快適さや、その施設、その地域を選ぶことの意義の大きさがそれを左右する。

今や、グローバル化の時代にあって、教育旅行といえども海外からの受け入れも視野に入れておく必要がある。また、国内でも、交通手段の変化による仕向地の変化が今まで以上に起きてくることも予想しておかなければならない。その意味において、地域も含めた受け入れ施設のますますの充実と、情報収集、情報交換が必要となってくる。

教育旅行部会の役割も、さらに重要になると考えている。

インバウンド委員会

堀泰則委員長

２００３年４月１日に「ビジットジャパンキャンペーン」がスタートした。それに合わせるように、近旅連でも委員会を立ち上げ、会社と協力体制を作り上げることとなった。それが今日の連盟事業のひとつ「インバウンド委員会」だ。05年に委員会組織をつくり、1年目は「欧米部会」と「アジア部会」に分け活動したが、翌年からは「インバウンド委員会」に1本化して活動している。

当委員会は全国の各連合会から選出された委員で構成され、会社側からは国際旅行（欧米）、アジア担当、中国担当の各セクションからそれぞれ担当役員、担当者に出席いただき、会議を年1、2回開いている。会社側から各国のマーケット（団体、ＦＩＴ）の説明、訪日旅行の現状分析などを聞き、各委員からは地域の受け入れ状況、問題点などを提示し、全員で討議する。時には外部講師を招き、「訪日客への取り組み」「訪日客の現状」などについて学んできた。

またこれまでに、訪日旅行拡大に有効な施策、阻害要因、また、地域に足りないものは何かなどを調査し、会社、各自治体などに進言してきた。それに加え、会社側へは会員機関から見た、分かりやすい訪日客用のタリフ作り、料金設定、好まれる行程作成などで協議、協力してきた。

本年から会社の組織が変わり、従来方面別に分かれていた会社の窓口が、国際旅行事業本部に1本化された。会員にとって、交渉、打ち合わせがスムーズになるものと期待している。

今後討議すべきことは世界からの訪日客対策（団体、ＦＩＴ）だ。特に中国からの誘客活動のための方策が中心となる。今までも中国各地の旅行博への旅連としての参加など行ってきたが、再度検証し、十分に効果ある施策を推進していく。送客に対応する受け入れ態勢を整えることも重要な課題だ。

もう1つの大きなテーマはウェブだ。会社の「ＪＨＯ」システムの推進に協力してきたが、昨年新たに「ＪＴＯ」となり多言語化したのに伴い、海外からのＦＩＴ需要の取り組みも大きな課題となってくる。当委員会も積極的に協力していく。

皆さんの力を借りて磐石な協力体制を作り上げていきたい。ぜひともご協力をお願いしたい。

クローズアップ 平成旅館塾

昨年6月、若手経営者の育成と交流、ＫＮＴのファンづくりの場として新たに「平成旅館塾」がスタートした。第1回、第2回で、延べ60人が旅館経営についての意見を深め合った。全国から集まった参加者は20～40代が中心で、中でも30代がもっとも多い。実際、旅館塾内では、若手ならではの悩み、意見が集まり、充実したグループ討論が行われた。参加者アンケートによると、「人材育成」「旅館サービスの向上」について課題を抱えている参加者が多いようだ。

地域の課題としては、「地域（行政）との連携」を挙げた参加者が各回とも多数にのぼっており、今後の旅館塾で議論すべきテーマと言えよう。

第２回のスケジュール

1日目	開塾式（45分）	
	第１講座「リピーターをいかに増やすか」～そのおもてなしと対策について（50分）	塾生、ＫＮＴ社員によるパネルディスカッション 旅館側の取り組み、ＫＮＴの取り組みなど具体事例から方策を考える
	第２講座「売れる商品づくりの処方箋はこれだ！」（50分）	
	第３講座「クレーム処理の極意はこれだ！」（50分）	
	第４講座「人づくりこそが企業を伸ばす」（50分）	
	ＫＮＴ代表者講義（30分）	斎藤彰英・ＫＮＴ常務取締役
	懇親会（90分）	立食形式で懇談 自地域の特産品の紹介とプレゼント抽選会で親交を深める
	グループ討議（120分～、時間制限なし）	7、8人ずつ「リピーター拡大策」「商品造成」「クレーム処理」「人材育成」の４つに分かれ、グループ討議
2日目	グループ討議のまとめ（90分）	グループごとに討議内容をパワーポイントにまとめる
	グループ発表×４（各55分）	発表に対し、アドバイザーがコメント
	パネルディスカッション「グループ発表統括を踏まえた旅館の展望」（70分）	発表内容と、今後の旅館塾のあり方について塾長らからの総括
	終塾式（15分）	

渡邉和裕委員長

このたび近旅連事業として「平成旅館塾」が開講した。近旅連ではこれまでにも、研究会を立ち上げて、長年にわたり会員が研さんを深めてきた歴史がある。

その1つは、「旅館経営研究会」だ。旅館の経営を研究する場が必要との会員の要望を受け、1960年に第1回が開催された。旅館経営のあり方、課題を中心に、世界情勢など幅広い範囲を学ぶ研究会で、2002年まで83回開催した。

もう1つはエンターテイメント研究会である。大阪万国博の後、旅行形態の「団体から個人へ」との移り変わりが見え始め、いかにして「個人客をおもてなしするか」を考えていく必要性から生まれた。1977年の第1回以来、2022年まで22回開催し、若手経営者が、教示されるのではなく自ら学ぶ場として、多くの卒業生を輩出した。

両研究会の休会から数年経ち、研究会を立ち上げを望む会員の声が年々高まったことから、平成旅館塾を開くことが決まった。

主な目的は、①日本旅館の伝統文化である「おもてなし」の再構築②「おもてなし」を生かして地域のリーダーとなり、地域振興に寄与する人材の育成③若手経営者が抱えるさまざまな問題を互いに解決していく場づくり――である。

グループ討議などを通し、「多様化、成熟化する今の時代に必要なおもてなしは何なのか」を参加者同士で考え、「ソフト面でできることは何なのか」など、主にソフト面での具体策を検討する。4回クールで完結できるようなテーマで組み立てているが、途中参加でも構わない。会員であれば誰でも参加できる。外部講師のほか、エンターテイメント研究会のＯＢが参加し、助言を行う点も特徴だ。

昨年は、「景気低迷の時代を生き抜くための具体策について」をメーンテーマに、6月の第1回では「おもてなしの原点とは何か等について」をテーマに33人が、12月の第2回には「リピータ対策、クレーム処理等」をテーマに31人が見識を深めた。各回とも参加者は夜中の12時過ぎまで熱心に討議を行っており、「建物は近代化してもおもてなしは一緒なんだ」「みんな同じ悩みを抱えているんだ」「本音で相談できる仲間ができた」などの前向きな感想を得たようだ。

今後、参加者の意見を講座内容に反映させ、年に2回の予定で進めていく。

まだまだ、立ち上げたばかりの平成旅館塾だ。皆さんのアドバイスをお聞きしながらよりよい塾に育てていきたいと考えている。

各支部連合会の開催日程

	日程	会場	
北海道支部連合会	３月10日	北海道札幌市	ホテルニューオータニ札幌
東北支部連合会	４月20日	宮城県	未定
関東甲信越支部連合会	４月２日	山梨県甲府市	湯村温泉・常盤ホテル
首都圏支部連合会	４月８日	東京都千代田区	九段会館
中部支部連合会	４月５日	石川県金沢市	金沢都ホテル
関西支部連合会	４月９日	大阪府大阪市	シェラトン都ホテル大阪
中国四国支部連合会	４月13日	徳島県徳島市	ホテルクレメント徳島
九州支部連合会	４月15日	福岡県福岡市	タカクラホテル福岡
沖縄支部連合会	４月16日	沖縄県那覇市	沖縄都ホテル

せせらぎが
優しさ
誘う
おもてなしの
やど

政府登録 国際観光旅館
白木屋グランドホテル
山口県長門市深川湯本2245 〒759-4103
TEL 0837-25-3311 FAX 0837-25-3939
東京(営)03-3542-8885 大阪(営)06-6649-8717
広島(営)082-943-1786 福岡(営)092-452-5536
http://www.shirokiya-gh.co.jp

新・増改築オープンは旅行業者向け告知宣伝のチャンスです。
大手旅行業者（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、トップツアー）の全支店、営業所をはじめ中堅旅行業者で有料購読されています。
告知宣伝は広告の他、記事広告（取材）にもお応えします。
お問い合せは本社・支社へ…見本紙を資料として送ります。
㈱観光経済新聞社
企画部 東京０３（３８２７）９８００㈹ 大阪０６（６３５４）６１６６

ご家族・お仲間でのご旅行に
1室2名様よりの
上質な旅プランをご用意しました。
日帰り入浴
AM11:00～PM9:00
大観の湯
大人 1人 1,000円
子供 1人 500円
（お食事利用の場合 大人800円 子供400円）
日帰り湯らっくすパック
2名様から AM11:00～PM2:00
お1人様 5,250円コース
6,300円コース
7,350円コース
（和食膳、室料、食前酒、入浴料、タオル、コーヒー、全部入った得々パック）
※料金はすべて消費税・サービス料込、入湯税150円込みの料金です。
茨城県立公園 五浦温泉 政府登録国際観光旅館
五浦観光ホテル ☎0293-46-1111（代） ☎03-3847-5991（代）
あんこう鍋付きプラン 2名様1室利用 平日16,950円～

あんこうの吊るし切りショー実演中! 夕方5時より毎日開催
期間:平成22年3月31日まで
※あんこう鍋は個人鍋となります。
※季節により料理内容、器など変更させていただく場合もあります。

香川・こんぴら温泉郷

●和洋室「ゆすらん」＆展望レストラン「みきり」
琴平グランドホテル 桜の杜
〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町977-1
TEL (0877)75-3218 FAX (0877)73-5669
ご予約は TEL(0877)75-1211
●温泉は2つの泉種と多彩な16種の湯処めぐり！
〒766-0001 香川県仲多度郡琴平町556-1
TEL (0877)75-1111 FAX (0877)75-5188
ご予約は TEL(0877)75-1588
こんぴら温泉 幸の湯 紅梅亭